

指定都市問題研究部より

平成21年度 第63回指定都市小学校長会研究協議会
横浜大会への参加報告

指定都市問題研究部長 安齋 知秀 (宮城野小学校)

I 指定都市小学校長会研究協議会の趣旨

大都市の抱える教育上の諸問題、並びに将来の展望についての調査研究と情報交換を推進し、教育の充実発展に資する。

II 平成21年度第63回横浜大会について

11月5・6日ロイヤルホールヨコハマで開催された。全国19指定都市から158人が参加し、地元横浜市立小学校長会から、延べ346人が加わった。仙台市からは米山会長、小野・今野両副会長並びに指定都市部員8人が参加した。

1 横浜大会主題

「生きる力」の理念を実現する、

活力ある学校経営の推進

—指定都市小学校長会の研究実践とその発信—

2 研究協議会

六つの分散会(学校経営、教育課程、人権教育、特別支援教育、生徒指導、地域連携)が設定され、仙台市からは蒲町小学校の赤間校長が「発達障害のある児童に対する校内の特別な指導の場の工夫」というテーマのもと、発表を行った。その概要は以下の通りである。

- (1) 小松島小学校(文部科学省の研究開発学校)では、特別な支援を必要とする児童のニーズに応えるため、「こまつしまプラン～学びを支える5つのS～」を策定し、支援の体制や内容、日程、形態、そして場を整えた。このことにより、校内の支援体制が確立し、児童一人一人に応じた指導が可能となった。また、研究を通して明らかになったのは、教師の専門性の向上と学級経営を土台とした授業改善の重要性である。小松島小の3年間の研究は平成20年度で終了したが、21年度も現行の制度の中で、職員の配置を工夫しながら研究を進め、個に配慮した指導を更に充実させている。
- (2) 特別な場を設けて児童の支援をしている小学校の例を五つ紹介した。これは、不登校傾向や学習に遅れがあるなど、特別に支援を要する児童に対して、保護者の同意を得た上で、通級指導型の別

室において個別に指導を行っているものである。どの学校でも担当者に特別支援コーディネーターを充て、個別の指導計画を作成していることなどが共通点として上げられる。

3 話題別情報交換会

開催都市を除く、全指定都市が情報を提供しよう。隔年で誌上発表と口頭発表を行う。仙台市は岡田小学校の遠藤校長が「キャリア教育の推進～仙台自分づくり教育について～」のテーマを掲げ、誌上発表を行った。概要は以下の通りである。

- (1) 仙台自分づくり教育は「人とのかかわりを大切にしながら、児童・生徒一人一人の望ましい労働観・職業観、自立する力をはぐくみ、自分をより豊かに成長させるとともに、確かな学力の向上を図るための教育」と定義され、平成16年から歩みが始まった。
- (2) 小・中連携の事例や小学4年生の「ゆうゆう弟子入り留学」など20年度の三つの実践例を紹介した。推進の基盤は地域とともに学校が歩み続けることであり、そのことが地域を支え社会的に自立した大人を育てることにつながっている。

4 シンポジウム(全体協議会)

研究協議会「教育課程を編成し、活力ある学校経営を推進する校長のマネジメント」について、開催都市の基調提案をもとに、8都市から一人ずつのシンポジストが参加し、協議が進められた。

5 大会宣言

横浜大会としての宣言文の提案があり、「心豊かな子どもの育成」「創意ある教育課程の編成」「指定都市特有の課題の解決」など六つの項目について、参加者の総意に基づく決意の表明がなされた。

III 終わりに

指定都市問題研究部は、第63回横浜大会の発表に備え、会長・副会長の助言をいただきながら、情報収集や研究推進に部員一丸となって取り組んできた。今後も充実した活動を進め、会員各位に役立つ情報を提供していきたい。